院内感染対策指針

2018/04/01 改定

2020/05/01 改定

I. 院内感染対策に関する基本的な考え方

医療の安全を考える際に、感染対策は非常に重要である。院内感染の予防、感染症発生時の対応などでは、速やかな情報収集、共有、そして対応して制圧、終息させることが重要である。そのためには、日頃より全職員が感染対策の重要性を認識し、その遵守を行うことが肝要であり、本指針を作成するものである。

II. 院内感染管理体制

1. 当院における感染対策に関する最高意思決定機関として、感染管理委員会を置く。同委員会の委員長は、病院長がこれにあたる。感染管理委員会は、ICT（感染対策チーム）からの情報・提言を最大限尊重し、病院感染対策全般の対策方針と具体的方策を立案・検討・評価し、院内感染防止に努める義務と責任を有する。
2. 当院における感染防止対策の実務的組織として、ICT（感染対策チーム）を置く。ICTは組織横断的に構成され、感染管理委員会から一定の権限を委譲され院内の感染防止対策を行う。
3. 各部署より感染対策に対し関心と知識のある職員で構成された感染委員会を置き、感染管理委員会および ICT と連携し、院内感染防止活動を行う。
4. 感染管理委員会・ICT・感染委員会を統括する部門として、感染管理部門（感染管理室）を置く。病院長より任命された感染管理者が感染管理部門を統括する。
5. 感染管理看護師の業務
感染管理者と共働して院内の感染対策を遂行し、以下の内容を計画・実施する。
 - 1) システムの構築
 - 2) 医療関連感染サーベイランスの実施
デバイス管理、インフルエンザ、感染性胃腸炎管理、アルコール手指消毒剤使用量調

査など

3) 効果的・効率的な感染防止技術実践の推進

感染制御を目的とした院内ラウンド、感染対策の現状報告と改善に向け委員会開催

4) 感染防止教育

職員教育研修会・新規採用者研修会・看護部基礎研修会など

5) コンサルテーション

6) ファシリティマネジメント

7) 職業感染対策（ワクチン接種、針刺し切創・粘膜曝露対策）

8) 地域連携活動

中東遠合同カンファレンスと相互評価・県西部病院環境管理懇話会の参加

Ⅲ. 職員研修

院内感染防止対策に対する意識と関心を高め、適切な知識を身につけること、および実際の業務運営の向上を目的として、全職員を対象とした職員研修を行う。

1. 職員研修は、新入職者を対象とした初期研修を年1回行うほか、全職員を対象とした全体研修を年に2回以上開催する。また、これ以外にも適宜研修会および勉強会を開催し、頭書の目的に寄与する。
2. 特に感染防止に関与する職員は、関連学会への参加や外部講習会への参加など積極的に最新知見を習得し、院内感染防止に還元することが推奨される。
3. 研修内容・開催日時・参加者を記録・保存する。

Ⅳ. 感染症の発生状況の把握・分析・報告に関する基本的方針

1. 院内の感染症発生状況に関しては、各部署より ICT に情報を集積する。ICT は情報を分析し、結果を院内全体で共有することで、院内感染の予防および蔓延の防止を図る。
2. ICT は週毎に病原微生物検出状況及び中心静脈カテーテル関連血流感染等のデバイス感染報告と、感染症発生動向をまとめ、月1回の感染管理委員会に報告する。
3. 早急な情報伝達が必要な際は、臨時に関連委員会を開催し共有する。

V. 院内感染発生時の基本的方針

1. 感染対策マニュアルに沿った対応を速やかに行う。
2. 異常事態の際は、ICT へ報告を行い、必要に応じて緊急感染管理委員会を開催する。感染管理委員会では、事態の分析と対策等を立案し、全職員へ周知徹底を図り、実行する。
3. 院内で対応困難な場合は、管轄保健所および感染管理基幹病院などと連携し、事態の対応にあたる。

VI. 患者への情報提供

本指針はホームページ上で公開し、患者および患者家族が閲覧できるようにする。

VII. その他

本指針は、感染管理委員会の承認を得て、改定を行い、全職員へ周知する。
各委員会・ICTの規定については別に定める。